

TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第37号 2018年7月1日発行



「ハウジングファースト(山吹書店)」刊行しました！ 夜回り用パン作りのスタッフと

・巻頭言		炊き出し調理班	5
いよいよハウジングファースト！	1	炊き出し公園班	6
・《ハウジングファースト》刊行しました	2	鍼灸班	7
・存続か倒産か、いよいよ正念場		ほっと友の会	8
会計報告	3	・すいめいさん真央さんおめでとう	
・2018年総会報告 その1		4.22交流会&WEDDING PARTY	9
炊き出しに並んだ人がやっと		・「船橋はいいところだよ」	
200人以下に	4	追悼 ますっち	12

いよいよハウジングファースト！

「寮に入った日に、飯は自分で用意してくださいって言われて、カビの臭いのする古い炊飯器と、安物の米の袋、レトルトのカレーとかの自炊セットを渡されたんです。あとで自炊セットの料金をみたら2万円を超えていました」

この人は池袋で野宿していたときに「生活保護でいい寮に入れますよ」と誘われて、業者の車で郊外の寮（民間事業者が経営する無料低額宿泊所）に入って利用契約を結び、地元自治体に生活保護を申請しました。2週間後に保護が開始されたので寮の費用を払おうとしたら、家賃以外に自炊セット代・鍵代・支援費などさまざまな名目で請求され、保護費全額を払っても「あと4万円足りない」と言われたそうです。「ここにいたら骨までしゃぶられる」と思ってその方はすぐに逃げたとか・・・

こんな話はいくらでもあります。「6畳をカーテンで仕切った2人部屋に入れられて、隣の人のいびきがうるさくて毎晩眠れなかった」「2段ベッドがずらーっと並んだ20人部屋に入れられた。部屋の中で威張ってる連中から金やタバコをせびられて、断ると暴力を振るわれた」「何年も干したことがないような布団を与えられて、ノミやダニに喰われてひどい目に遭った」「生活扶助費が7万円くらいなんだけど、『三食出しているから』と寮にほとんどを取られて、手元に残るのは月に3千円だけだった」・・・etc

ホームレス生活から再出発をするために生活保護を申請しても、福祉事務所が紹介する寮の多くはこんな環境と条件です。普通の人でも耐えられないような生活環境で、心も体もぼろぼろになった人が元気になれるような要素はどこにもありません。

ある方は、そんな寮に入ったときの気持ちをこう語ってくれました。

「俺たちみたいな人間にはこんな住まいしか与えられないのか。だったら野宿の方がまし」。

6月1日、生活保護法「改正」案が成立しました。保護費の引き下げ、ジェネリック医薬品の「義務化」など保護費の削減を目的とした施策がてんこ盛りです。しかし、このような「貧困ビジネス」に唯々諾々と税金が垂れ流されている現状こそ「改正」が必要ではないでしょうか。

誰も保護しない「生活保護」って？

必要な人に必要な保護を届けることこそ、税金の使い方の「適正化」では？

このようなシステムになったのにはそれなりの経緯と理由があります。「福祉事務所が悪い」とか、「業者が悪い」とか、そんなことを言うつもりはありません。そこで頑張っている人たちがたくさん居ることも知っています。

それよりも、これからどうするかを考えましょう。

今回の「改正」では優良な施設を支援するという施策も盛り込まれました*。それも必要でしょう。でも私たちが求めるのは「寮ではない、普通の人々が普通に住める当たり前の家」です。施設を飛び出して、TENOHASIのシェルター（アパート）に入られた方はこのように感想を語ってくれました。「アパートで寝るとこんなに身体が休まるんですね。路上や、相部屋の寮では、横になって寝たつもりでもちっとも疲れが取れなかったんです」。

プライバシーが守れる自分だけの空間。ゆっくりと休める場所。これを最初に提供する支援方法を「ハウジングファースト」と言います。今こそ日本にも「ハウジングファースト」支援を。

事務局長 清野賢司

*今回の「改正」に「しっかりした支援を行う優良な施設を日常生活支援住居施設と指定して財政支援する」という施策も盛り込まれましたが、施行予定は2020年です。

『ハウジングファースト 住まいからはじまる支援の可能性』 刊行しました！！

TENOHASI が参加する「ハウジングファースト東京プロジェクト」のメンバーが、日本で初めてのハウジングファーストの紹介と実践と課題をまとめた本を刊行しました。お堅い専門的な内容のみならず、支援の現場での悔しさと課題、各メンバーの経歴など盛りだくさんな内容です。

刊行してから、全国の福祉関係者・行政の担当者から見学の申し込みが相次いでいます。この国の福祉のあり方を少しでも動かせるように皆さんもぜひお読みください。

毎日新聞 2018年5月27日 東京朝刊書評

米国で開発された「ハウジングファースト」。本書によると、路上生活者や精神科病院の入院患者らにまずは住まいを提供し、福祉や医療の専門家による支援サービスを実施して自立を促進する方式をいう。この方式を日本でも本格導入し、社会復帰しやすい仕組みをつくるべきだとの提言をまとめた一冊だ。

編者は、長年、路上生活者らの支援に取り組む団体のスタッフや医師ら。米国で開発された同方式が、社会復帰に効果を上げている実例やデータを提示。その一方で寮生活を送りながら就労支援を受け、仕事を得てからアパートに移り住むという「ステップアップ方式」が主流の日本では、集団生活になじめない人たちがドロップアウトし、再び路上生活に戻る実情を訴えている。

編者の稲葉剛氏は「ハウジングファーストは、パターンリズムから抜け出せずにいる日本の社会福祉や精神医療のあり方に変革を迫る」と強調する。今後、社会保障費の上昇が懸念される中、施設からの社会復帰を手助けする同方式は、一つの解決策や処方箋となりえるのではないか。福祉関係者らにとって必読の一冊といえる。(武)

Amazon カスタマーレビューより

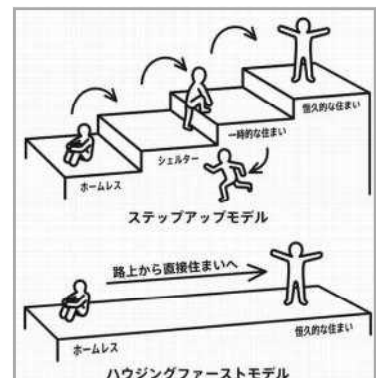
ハウジングファーストについて、10人の支援者の様々な経験や角度から書かれていて、福祉の現場を知る上でも、世界の最先端を知る上でも、とても良かったです。

福祉を再び学び始めた私にも大変面白く読めましたし、また既存の福祉から脱してより良い方向を探る福祉関係者の方にも是非読んで頂きたいです。

なぜなら、ハウジングファーストが目指す人間の尊厳の保ち方は、今後の高齢者福祉や子どもの福祉全体にも求められる必然だと気が付かせてくれたからです。



山吹書店 2600 円



存続か倒産か、いよいよ正念場。会計報告

みなさま、いつもご支援ありがとうございます。

① 2017年度決算 収入

昨年度お寄せ頂いた寄付金は約400万円（前年度よりマイナス約100万円）でした。

寄付者の多くの方がリピーターで、毎月振り込んで下さる方・団体もあつて感謝しています。

昨年度からクレジットカードでの寄付システムを導入しました。まだ郵便振替での寄付と比べると多くはありませんが、ネット環境とカードがあれば郵便振替よりも手軽にご寄付いただけますので、これからご利用いただけたいと思います。詳細はホームページをご覧ください。

また、庭野平和財団からの助成金が300万円でした。庭野平和財団からは2015年から17年まで3年間合計900万円の助成を頂き、現場で支援に当たるソーシャルワーカーを雇用することが出来ました。ありがとうございます。

② 2017年度決算 支出

来年度は庭野平和財団の助成が終わることを見越して節減に努めた結果、年間の支出は約580万円で、前年度より約480万円減らすことが出来ました。

ただ、削減分の半分は、有給職員の戸口さんの産休育休と小川さんの介護休で業務委託費が減少したことによるものです。

③ 2018年度予算

庭野平和財団からの助成金は昨年度で終了し、今年度は皆さまからの寄付だけが頼りになります。

今年度予算を、寄付金を昨年並み、支出が生活支援と広報の充実のために約100万円増と考えて組みました。

差引で約270万円の赤字。これがあと数年続くとTEN OHASIは資金が枯渇して倒産します。皆さま、寄付・広報などのご支援をよろしくお願いします。

2017年度決算 & 2018年度予算

(円)

		2017年度決算	2018年度予算
前期繰越		10,128,133	11,378,631
収入	寄付金	4,034,915	4,034,915
	助成金	3,000,000	0
	合計	7,034,915	4,034,915
支出	炊き出し	920,428	1,032,000
	生活支援	1,262,111	1,944,000
	シェルター家賃	1,390,000	1,260,000
	水道光熱費電話料金	16,200	36,000
	業務委託費	1,669,000	1,125,000
	事務費	526,678	1,380,000
	合計	5,784,417	6,777,000
単年度		1,250,498	-2,742,085
次期繰越		11,378,631	8,636,546

特定非営利活動法人TENOHASI



2018年総会報告 その1

2018.6.2

炊き出しに並ぶ人が、
やっと200人以下に！

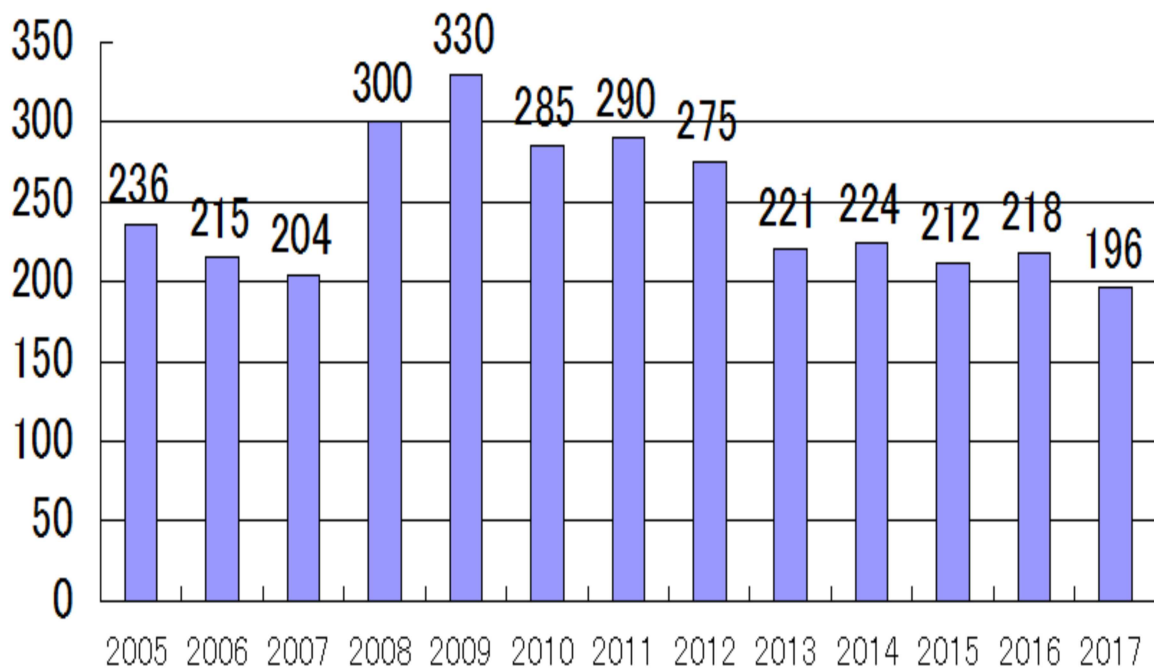
炊き出しに並ぶ人数は、記録を取り始めた2005年から13年目で初めて200人をわずかに切りました。リーマンショック後の300人越えから8年かけて、ようやくここまで来た、という感慨があります。

しかし、路上生活者が減る中で、今も路上に残っている人というのは、みな何かしらの要因があつて既存の支援策に乗れないために今も路上に居るとい方がほとんどです。

生活保護を受けていったんは路上を脱したものの、居住空間の劣悪さや支援の薄さから路上に戻ってしまった方も多くいらっしゃいます。

今後、炊き出しに並ぶ人が順調に150人↓100人と減って欲しいのですが、今まで通り続けるだけでは実現しないでしょう。ハウジングファーストを始めとする新しい支援を探っていきます。

炊き出しに並ばれた人数



炊き出し

「調理」班



毎月第二・第四土曜日、午前十一時から某所にて調理を開始しています。

まずは、全員でミーティング。簡単な自己紹介のあと、当日の作業を確認し、役割分担をしていきます。作業は、洗い場、米とぎ、野菜切り、釜場があり、それぞれコアスタッフを中心に進めていきます。

手はよく洗い、調理器具も消毒。衛生面に細心の注意を払います。材料は食べやすい大きさに揃える、午後六時の配食開始に合わせて温かさを保つ、何より野菜たっぷりの汁をおいしく食べてもらうために、ボランティア一同工夫して作っています。



ここ数年、「だれでも、どこかのポジションでもできるようにしよう」ということから、各持ち場を理解できるコアスタッフが育ってきたように感じます。

★洗い場

まずは流し場の設置から始まります。使える水道は三つ。水が飛び散らないように注意しながら、寸胴鍋や、切った野菜を入れておく衣装ケース、炊きあがったご飯や野菜汁を入れておくクーラーボックスなど大きなものから、ボウルなどの調理道具、コップなど細かいものまですべて洗っていきます。もちろん、前回洗って保管しています。が、使う前にすべて洗い直します。外での作業になるため、夏は暑く、冬は寒いです！

★米とぎ

室内の洗い場での作業になります。1釜8リットルで、7〜8釜分の米を洗っていきます。かなり力のいる作業なので、男性にお願いすることが多いです。

★野菜切り

寄付でいただいた野菜たちを次々に切っていきます。公園に

並ばれる方たちは歯の弱い方も多く、食べやすいように、でも溶けてなくなったりしまわない程度に、心を込めて切っています。野菜が切り終わったら、鶏肉も小さく切っていきます。

★釜場

煮炊きはすべてここで行います。お湯を沸かしたり、ご飯を炊いたり、野菜汁を作ったり。火元は目が離せないのです、まかないの時間も交代で火加減や時間をチェック。夏はかなりの暑さに。反対に冬は暖かく、作業の合間に他の持ち場のボランティアが暖まりに来たりします。味付けは侃々諤々、みんなで見しながら決めていきます。

★雨の日はお弁当

炊き出しは、雨でも行われませんので、その場合は調理班でお弁当にし、公園に運んで配布します。雨の日はボランティア参加が少ないうえに、作業はご飯・おかずのパック詰めが加わるので、かなり大変です。「雨の日のボランティア参加求ム！」です。

★カレーの日はラクラク

ここ数年、大塚モスクさん、シャルマホールディングスさんが年に数回、本格カレーを提供してくれます。その時は、ご飯炊きと付け合わせの野菜を作るだけなので、調理班はとってもラク。本当に感謝しています。公園に並ばれる方にも大好評です。

このように、夕方六時から配食に合わせて、おいしい、温かいご飯を提供するべく、ボランティア一同心を込めて作っています。学生、社会人、リタイアした方など、老若男女様々な方が参加されていますので、関心を持たれた方はどうぞご参加ください。



月	日	天気	人数	配食数
4	8	雨のち曇り	148	400
	22	曇りのち雨	150	405
5	13	雨(弁当)	127	199
	27	晴	250	468
6	10	晴	190	415
	24	晴	182	358
7	8	晴	170	444
	22	晴	191	334
8	12	晴	227	468
	26	曇りのち雨	167	390
9	9	晴	189	385
	23	晴	223	393
10	14	雨のち曇り(弁当)	173	239
	28	曇りのち雨(弁当)	130	329
11	11	晴	187	433
	25	晴	242	432
12	9	晴	218	458
	23	晴	354	596
1	13	晴	224	469
	27	晴	189	421
2	10	晴	175	439
	24	晴	197	414
3	10	曇りのち晴	177	375
	24	晴	212	373
合計			4,692	9,637
平均			196	402

炊き出し「公園」班

炊き出し公園班の活動は、毎月第2・第4土曜日。16時半から衣類配布とコーヒータイム、18時から配食です。炊き出しボランティアは調理と公園合わせて平均52人。継続・新規の割合は半々ぐらいで、ときどき学生がサークルやゼミ単位で大勢参加してくれます。調理から公園まで通して参加してくれる方もいらっしゃいます。詳しくはTENOHASIブログの「炊き出しボランティア日記」をご覧ください。

2017年は夏～秋にコスプレイベントやフラフェスタ・集会とかぶって時間や公園を変更したことがありました。

大塚モスクとシャルマホールディングスさんのカレー炊き出しの頻度も増え、2回連続でカレーの月もありました。ご協力に感謝です。

「カレーが辛い」という声もありますが、当事者の方からはおおむね好評のようです。

◆二枚目の名刺

社会人ボランティアが各々のスキルを活かしてNPOを助ける団体「二枚目の名刺」のみなさんが、炊き出しの新人ボランティアへのWEBアンケートのシステムをつくってくれました。

- ・新人さんに炊き出しの概要チラシを配布（アンケートにアクセスするQRコード付き）
- ・アンケートの内容は参加した動機や担当した仕事の感想など

→ただしまだ回答率はいまいち？

◆留意点

- ・コーヒーが美味しくない、との声がありました。大量に用意する必要があるためそこまでは味にこだわりますが、もう少しクオリティを上げられないか。検討中。
- ・終了ミーティング、各報告や感想の声が聞こえづらいことが多いので。マイクを使うようにするか……

鍼灸班

★活動内容

炊き出しの日、公園内にテントを張り、ベッドを設置してはりとお灸を使った鍼灸治療を希望者に提供しています。

★当日の動き

15時に荷物置場となっている東池袋四丁目はりきゅう院に集合、テント・ベッド・毛布・受付用のテーブルやカルテなどの器材をリヤカーに積んで出発、公園にて準備。16時、受付と治療の開始。18時頃治療終了・片付け開始、撤収、はりきゅう院へ戻って片付け、活動終了は19時頃。

★参加者

①鍼灸師・登録鍼灸師は約10人いますが、各回の参加者は2〜3人。途中参加・退出の鍼灸師が交代しながらベッド1〜3台をなんとか稼働できているという状況のことが多いです。
②受付係は1〜2人でカルテや順番の管理、問診を行ないます。
③準備・片付け・運搬は参加の

鍼灸師と受付係で行ないますが、公園のおじさんにも協力していただいています。人手不足の時はてのほしに手伝いを要請し、助けてもらうことが度々あります。

★利用者

生活保護や年金受給、ネットカフェ・路上の方々と様々です。40〜70歳代の男性が多いですが、20〜30代の若者や女性の利用も最近は少なくありません。一人の治療時間は20〜50分程度で、毎回10人前後の方が利用されます。

症状では、腰痛がダントツ一位。長年の肉体労働や不衛生な生活環境に関連すると思われれます。また、首・肩・腰・下肢など身体各部の痛みやしびれの訴えも多く、その他に頭痛、胃痛、喘息、息苦しさ、耳鳴り、うつ、顔面神経麻痺、坐骨神経痛など、運動器系、呼吸器系、消化器系、神経系とその症状は多岐にわたっています。

鍼灸治療はWHOでも様々な症状や疾患に有効性があると考えられているように、月に2回という限られた頻度ではありますが、東洋医学として様々な病状に対

応しています。

★課題

1. 安定した人員確保

活動には鍼灸師2人と受付1人を必要最低人員とし、これに満たない回は活動を中止することになりました。この1年間ほどは、当日朝まで人員確保できず直前に参加者が見つかり、ギリギリの人数で実行するというような綱渡りの状態が増えていきます。新しく参加されても継続参加が難しく、常に人手不足の状態のため、メンバー募集を継続して行なっています。

鍼灸師、受付係、準備協力者を常時大募集しています。途中参加途中退所OKです！

2. はりきゅう院存続危機問題
今春あつた存続危機問題はとりあえず回避できましたが、いつまで継続できるかは不明瞭です。継続できなくなった場合には、活動に必要な荷物器材の置き場所と公園までの運搬について、経済的・物理的に鍼灸班だけで対応することが難しくなり、TENOHASIへ依存することになる可能性もあると思われ



ほつと友の会 (お茶会)



★活動

毎月第4土曜の炊き出しの日に、公園内にダンボールを敷いてみんなで輪になって語り合い、お話を聴き合う活動です。はじめにお茶や手作りのお茶菓子を食べ、歌を歌い、ゲームをして場があたたまった後、落ち着いた雰囲気の中、お互いの話をわかち合います。

昨年度は、1回平均約14、6人の方の参加がありました。

★感謝

・昨年は雨の強い日などもありましたが、「これも良い思い出だね」と話しながら会を重ねて、無事に1年を終えることができました。これも、荷物運びや様々なご協力を頂いている皆さま

のおかげです。また、カトリック池袋医療班の皆さまからは貴重な活動費のご支援をいただいています。誠にありがとうございました。

★昨年度の良かった点と課題

昨年度は、参加して下さる方が増えた1年でした。その前の年よりも平均で4名ほど増えました。

会に参加しても途中でふらつと離れる方が、最後までいてくださるようになり、常連さん同士が「今日は誰々さん来てないね。どうしたのかなあ。」とお互いを思いやり、「ここに来ることが毎月ほんとうに楽しみ。また、みんなに会いに来るよ。」と言ってく下さる方々が増えるなど、人数だけでなく会を大切に思ってお気持ちも増しているようです。みなさん、きつと、ほつと友の会は、自分がほつとでき、友だちに会える場だと実感してくださっているのだと思います。そうした常連さんが新しいお友だちを連れて来てくださり、その結果として、参加者が増えました。「ほつと友」の良さをより多くの方に感じていただくことが昨年度の良い点でした。

た。

一方、課題は、毎回の会をしつかりとお話を聴き合う会にできるかです。人数が多くなりすぎたり、集中できない状況があったりすると、お互いの話を大切に聴くことが難しくなります。毎回毎回が一期一会ですので、その時その時の工夫が必要となります。

★今年度の方針

ひとり一人が安心して自分の話をすることができ、友だちの話を聴くことができる場づくりを今まで以上に心がけます。ご自身が良いと思える人生を送れるよう、応援し合える場となること、また、離れていても思い出すと心が暖かくなるような、そのような関わりを目指していきたいと思えます。

★おわりに

ある常連さんが、長期入院されることになりました。その直前の会にいらして「みなさんが私をここでずっと待っていてくれるのがわかるから、安心して過ごすし、また戻ってくるよ。」と伝えてくださいました。

私たちはこれからも、一回一

回の会を大切にして、初めての方も常連の方もたえず待ってほしいと思います。そして、このような活動をいいなと思われる方、ぜひボランティアにいらしてください。お待ちしております。



すいめいさん・真央さん おめでとう！！

2018. 4. 22

ハウジングファースト東京プロジェクト交流会 & WEDDING PARTY

@ホテルメトロポリタン



TENOHASIの創設メンバーで、副代表理事・精神科医の森川すいめいさんと、訪問看護ステーションKANOCの看護師・野上真央さんが結婚しました！

すいめいさんは医学学生だった2001年に池袋の支援活動に参加し、2003年にTENOHASIを立ち上げて、それ以来一貫してTENOHASIとハウジングファースト東京プロジェクトの中心的役割を果たしています。

真央さんは看護師として4年間病院で勤務した後、自車で2年かけて日本一周。そこで「浦河べてるの家」に出会い、2016年にKANOCに入職。ボランティアで炊き出しの生活相談もやってくるすてきな人です。



二人は昨年のオープンダイアログのトレーニング基礎コースで仲良くなり、付き合ってから1ヶ月の12月24日に入籍という電撃婚を果たして、周囲をあっと言わせました。

この日の会場は、正式な披露宴ができる池袋西口のホテルメトロポリタン。でも懐の寂しいメンバーも気軽に参加できるように会費は何とワンコイン。

当事者メンバー・スタッフ・ボランティアなど百人以上が思いの服装で集まりました。



サプライズの結婚誓約書署名式では牧師役（なのにジーンズ姿）のKAZOC・小川看護師に誓いのキスマまでさせられ・乾杯の音頭はこれまたジーンズ姿の「池袋のアイドル」田屋じい。



ハウジングファースト東京プロジェクト参加各団体からは「真央さん、考え直すなら今のうちです」（TENOHASI・清野事務局長）「ここで嫁さんをゲットするなんて活動の場を何だと思ってるんですか」（KAZOC・渡辺代表）「この場をお借りして新しく出た本・ハウジングファーストの宣伝を・・・」（つくろい東京ファンド・稲葉代表）などの心温まるメッセージがありました。



そして、歌のプレゼント①
 「炊き出しがあるさ」（「明日があるさ」の替え歌・抜粋）♪
 ゆうりんに受診に来たけれど
 森川先生 顔色わるい
 「大丈夫ですか？ご飯食べてます？」
 今日も逆診察♪
 ゆうりんがある ゆうりんがある
 ゆうりんがあるさ
 今日のカゾックの訪問日
 誰が来るかはお楽しみ
 ドアを開けた 野上さんだあ
 血圧上がったよー
 カゾックがある カゾックがある
 カゾックがあるさ
 みんなで行ったフィンランド
 うしろ姿についていく
 まるで子犬 まるで子犬
 かわいいすいめいさん
 いつの間にか 二人は夫婦
 どうかしあわせに♪
 明日があるさ明日がある
 東京プロジェクトには夢がある
 いつかきつと いつかきつと
 みんなでしあわせになろう
 明日がある ゆめがある どう
 かしあわせに♪



歌のプレゼントは、

② なべさんの

「ギンギラギンにさりげなく」

③ えりなさんの

“I will always love you”

と続いて

④ 最後に狂乱の

「リンダリンダ」

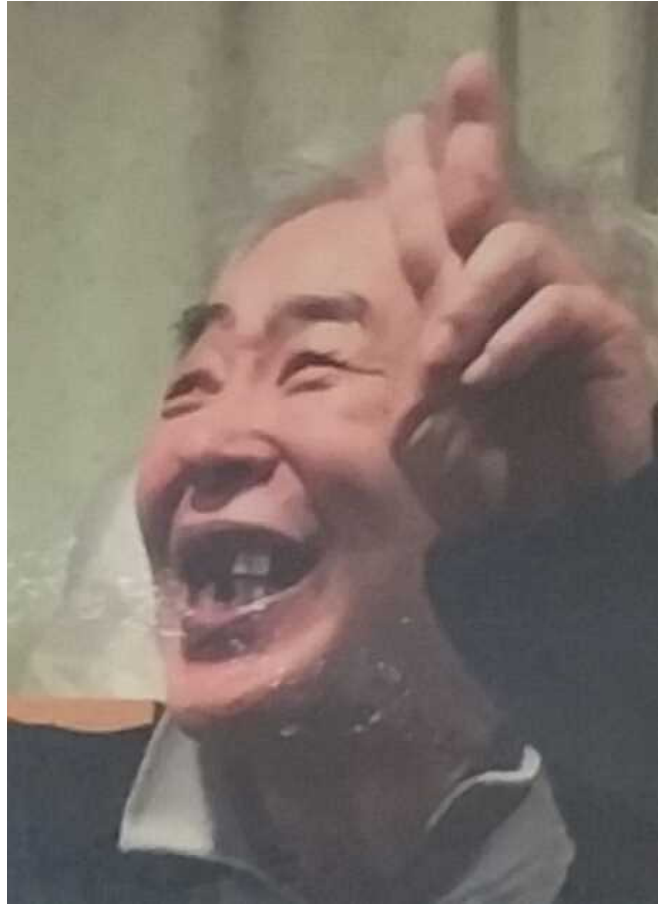
新郎新婦もステージへ。

すてきなパーティーでした。

お二人が末永くありますように。

そして皆に幸せなことがこれからたくさんありますように





十数年前、ますっちはいつも池袋駅の地下通路で寝ていました。

話しかけても悲しげに俯くだけでコミュニケーションが取れなくて、その時は「この人が路上生活を脱するのは難しいだろう」と思っていました。

それから長い紆余曲折があつて、ますっちはついに路上を脱してアパートに落ち着きました。そして「じゃあまた来週！」と元気に挨拶した2日後の2018年3月12日、アパートで亡くなっているのが発見されました。虚血性心不全でほぼ即死だったと推測されるのがせめてもの慰めです。66歳でした。ますっちは「路上から直接ア

パートへ」というハウジングファースト型の支援をした第一号でした。

「ハウジングファースト」は長期の路上生活者への支援の切り札だと私たちは確信しています。しかし、それだけですべての人を支援できる訳ではないことを、ますっちが教えてくれました。

ますっちの生きた軌跡と私たちの関わりの軌跡をここに残したいと思い、皆さんに話を聞きました。

最初に支援したTENOHAS I坂内さんの話

ますっちは2006年頃には池袋で野宿していました。私が初めて生活保護申請に同行したのは2009年だと思えます。豊島区に申請したんですが、指定された施設に行く途中でいなくなりしました。それまでも生活保護で多くの施設を利用して失踪した履歴があつて、ああいう施設は正しい人しか残れないか

ら、そういう所には耐えられない人だと言うことはわかりました。それからまた何回か生活保護を申請しては失踪して…を繰り返してきました。

そんなときに、練馬区でアパートを経営している小室さんから、うちのアパートを困っている人たちのために使って欲しいというお申し出を受けたんです。それならば、と言う話になって、2011年4月にますっちはシエルターから敷金礼金なしでアパート契約を結び、練馬区に生活保護申請しました。

首都圏で路上から生活保護を申請すると劣悪な環境の施設に入れられて、たくさんの人が逃げ出してしまいます。でも、「路上から直接アパートに住む」のは法律上は可能、とは思っていました。アパートに住んでい

る人が生活保護を申請すればそのアパートでの生活保護が認められるから、大家さんと直接アパート契約してから申請すれば最初からアパートで生活保護を

「船橋はいつといつろだよ」

追悼 ますっち

受けられるんじゃないか、と。しかし果たして本当に通るのかと思つて申請したら、あっけなくアパートでの生活保護が認められました。「ハウジングファースト」ですね。その頃はそんな言葉があることも知らなかったのですが。

だがしかし、アパートがあればすべて解決するわけではないとがすぐにわかりました。最初の保護費を貰ったら、まずっちはすぐいなくなつて、20日後くらいにぼろぼろになつてシェルターに帰つてきた。「どこに行つてたの」と聞くと、「故郷の船橋市に行つてずっと飲んでた」と言つてます。

まずっちには軽度の知的障害がありました。路上には福祉に捕捉されなかつた障害者が多いのですが、まずっちはちゃんと福祉に繋がっていました。福祉制度を利用しながら40歳くらいまで船橋の自宅で家族と暮らして、自分の部屋でビートルズやローリングストーンズを聞いてたそうです。ただし、子供の頃、テレビの中の人自分が話しかけてくるという感覚があったそうだから、そのころから精神障害もあったようです。

交通事故に遭つて頭や脚にも障害が残りました。

工場で働いていたときに悪い同僚がいてお酒やギャンブル・シンナーを教わつて歯止めがきかなかつたそうです。家族といろあつて家を出たのが40歳過ぎ。最初は上野公園で10年間野宿生活。池袋で会つたときは50代半ばになつていました。

船橋から帰つてきてから話合つて金銭管理をすることになりました。保護費を全部500円玉にばらして1回に3枚ずつくらい渡してしまつて、それとちよつとは持ちました。アパート生活できるかどうかと言うのは結局はお金を管理できるかどうかなんです。まずっちの場合、お金を持つと逆らえなくなるんです。「私を使え」と命令されるような感覚。「楽しまないといけない」みたいな。そのくせ全然楽しそうじゃない。泣きながら酒飲んでるんです。

まずっちは「船橋はいいところだよ」「船橋に帰りたい」といつも言つてました。一回、一緒に行ったことがあります。なじみのスナックには話の通りのママさんがいてカウンセリングのようなことをしていました。

でもまずっちが言う船橋というのは今の船橋じゃなくてまずっちが幸せだった昔の船橋なんですよね。友達とかもう死んじゃつていなくなつたり。だから船橋に行つても帰つてくるんです。

映画が好きだということでもイルナイトに2度付き合いました。家のある感覚を取り戻して欲しくて旅行にも何回も行きました。その頃は多くのボランティアが連携して支援する形でしたが、重い人ほど人手とお金が必要で、ところがそういう人ほど福祉的には劣等処遇になつていく。社会的包摂が大事と言いますが依存症の方は支援側から見えないネットワークにすでおごつてくれる人やカツアゲする相手です。そんなネットワークでも孤立よりはよいのだと言いたい気もしますが、それなら被害者のケアもしなければならぬ。

アパートの大家・小室さんの話

住まいを得てほつとされるかと思つたら、むしろアパート

暮らしが辛かつたみたいです。それからアパートから居なくなつてはまた帰つてくると言うのを何回もされました。

朝方、よく泣きながらいらつしやるの。「隣でガタンと音がした。自分がうるさかつたんじゃないか」「なにかされるんじゃないか」。そういうのをものすごく気になさつていて、でも慰めると元氣になつて戻れる。

掃除やゴミ出しも苦手で、私が注意すると「はいはい」って言うけれど、注意されるのも切なかつたんでしようね。繊細な人だから。一人暮らしが寂しすぎたのかな。

そういえば絵を描くのが好きで、よく見せてくれました。風景とかマンガとか。「すごい上手」って言われると意気揚々と



してました。お絵かき教室にいったらいいんじゃないかと薦めたんですが、見学しただけで行かれませんでした。障害者の作業所も試してみましたが、音がうるさくてダメだったみたいです。

最後は「犬や猫のように自由に暮らしたい」「お金のない世界に行きたい」という名台詞を残して退去されました。あの部屋に居たのは1年間あまりだったと思います。

ますつちの言葉

その頃の記録から・・・

「部屋で一人していると不調になる。もやぐんとしたお化けみたいなものが見えて来る。秋はもつとひどい。今でもこんなにつらいのだから、2月になつたらどんなことになるのだろうか。そのことを考えると心配で心配で、じっとしてられないの。生きていくのか死んでいるのかわからなくなる」

「一人の時、さみしい時に正体不明のふわふとした不安がやって来る。それを消そうとしてお酒をたくさん飲むけれど、不安は消えなくて、かえって苦しく



なる。頭がぼーっとする。昔の嫌な思い出が蘇ってくる」

「お客さん(幻聴)が沢山来ていて。『酒を飲んで、パチンコをやって、競馬行って、船橋に行つてめっちゃめっちゃになってしまえ。どうせ30年も40年も生きることもなんか出来やしないんだ。だから、相談なんかしたつてしようがない』って、頭の後ろで声がする」

そんな嵐の中で、支えになつたのは同じ元路上生活の仲間でした。

「電話で『何のために生きていくのかわからない。坂内さんを裏切つてはいけない、悲しませてはいけないと思つて頑張つて来たが、もうどうしていいかわからない』と泣いていました。でも次の電話では『「今ごはん

りました。

「居場所ですらブルを起こしたAさんに、ますつちが手紙を書いてくれました。」

『ざっくばらんにいこう。みんなでおいしいもの食べよう。どこかあそびにいこうみんなでみんなかぞく』

ますつちの気持ちがこもつていて感動的でした。」

アパートを退去した後も、ますつちとの関わりは切れることなく続き、路上とグループホームを何回か行き来して、2016年、再びアパート生活にチャレンジしました。

べてぶくろのグループホーム職員 木村さんの話

食べてる。これから薬飲む。仲間の写真があるから大丈夫」と穏やかな声でした。

優しい気配りが出来る人でもあ

2015年の春、それまでいたグループホームを飛び出してきた頃に初めて会いました。池袋駅の東武デパート側の地下通路です。夜回りで缶コーヒー差し入れているうちに打ち解けてきて、「きむじゆん(木村純一)を略して。ますつちはあだ名をつける名人でした」の所だった。行こうかな」と言ってくれたので、べてぶくろのグループホームに入ってもらいました。最初はお試しで、ここで行けるとなつてから生活保護を申請してグループホームの利用契約を結んだのが2015年の7月でした。

入ってから生活はとても落ち着いていました。「ここならいい」と。他の利用者とも仲良くなつて、グループホームのミーティングや食事会には必ず顔を出して一緒にご飯を食べてました。家族じゃないけど、仲間が居るという安心感があつたんだと思います。

グループホームは期限があるのでいざずれアパートに移らなければいけないんですが、「アパートで一人は嫌だ」って言うので、たんですよ。そしたら田屋さんやすーさんがいるアパートが一

室空いたんで、そちらに移るこ
とになりました。2016年の
4月です。

これで一安心と思っただん
が、アパートに行つてから調子
が悪くなりました。お酒飲んで
幻聴幻覚が出るが増えたん
です。お化けの絵が好きでよく
書いていたんですが、壁に貼つ
た自分の絵からお化けが出てき
ちゃうんです。

夜、部屋にいられなくなつて、
ウナギ公園とかで野宿するよう
になりました。本人は「アパー
トに帰れない。路上も嫌。入院
も嫌。グループホームはよかつ
けど、戻りたくはない」。アパ
ートがあるのにホームレス状態
に戻ってしまったんです。

ウナギ公園は福祉事務所から
近いので、福祉事務所から「あ
そこに居ますよ」と電話がかか
つてきて、ある時は「ますっち
をアパートに移したのは失敗で
したね」と辛辣なことを言われ
たりもしました。

真夏のある日には「もう家に
居られない」って家出しました。
数日後、なぜか埼玉県の三郷市
で倒れて救急搬送されたので迎
えに行きましたよ。

部屋で寝られるようになった

のはBSのおかげです。当事者
研究(自分の苦勞をみんなで「研
究」して「自分の助け方」を創
造する活動。べてぶくろは当事
者研究を発明した浦河べてるの
家の池袋支部)で「テレビが面
白くない。夜になると幻聴が聞
こえて来る。妖怪屋敷になる。
帰りたくない」と泣いたので、
みんなで「テレビが面白くない
ならBS入れてみたら」ってア
ドバイスしたんです。それで2
017年の秋にBS(衛星放送)
を契約したら、時代劇やスポー
ツが楽しみで部屋にいられるよ
うになりました。暇な時間が苦
手だったんです。「これで落ち
着ける」と思っていたら、突然
の訃報でした。

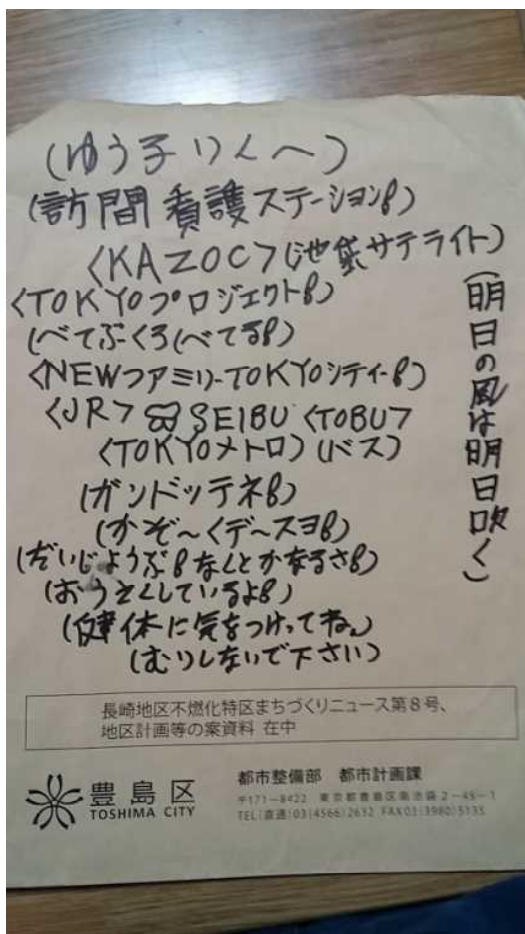
3月22日、瑞江葬儀場で行わ
れた葬儀には、なんと30人も
集まりました。ますっちはいい
顔をしていました。

ますっちの葬儀から二ヶ月後に開
かれた「ますっちと語る会」
15人も集まって思い出を語り
ました。

・亡くなったって聞かされた
きは信じられなくて、三日三晩

泣き暮らした。まだ受け入れら
れない。会えるはずの人がいな
い、声すら聞くことが出来ない。
思い出すと涙が出たりする。ま
たひよっこりふすまを開けてま
すっちが来る気がする。
・一緒にリディアバの「ホーム
レスツアー」で講師をやりました。
ますっちは段ボールハウス
作るのが上手くて、本当にお家
みたいに作るんです。「段ボ
ールはいいよ、温かいよ」と言っ
ていた。天国でも作ってるんじ
やないかな(笑)。

・ますっちに会いたい。いつも
ニコニコして「ゆうこりん」「ゆ
うこりん」と言ってくれて肯定
してくれるから自分を好きでい
られた。とても安心感があった。
・いつもニコニコしてて、怒ら
れたりイヤなことをされたりし
たことがなかった。いつもやさ
しくて「Jさん、来てくれたん
だね」と言ってくれた。辛いで
す。



・ますっちは当事者研究が好きなんですよ。ある日、平和な感じでわいわいやつているときに、震えながら入ってきて「酒を万引きしてしまった」って衝撃の告白。平和な雰囲気はぶちこわしです。「それを研究する？」て聞いたら「したい」と。「マジか」って思いました。でも、その経緯を話し始めるとだんだん落語みたいになって、最後は「気がついたらポケットに入ってたんだよ」（笑）。すごく盛り上がりました。隣になった人が怯えていたけど・・・ますっちは当事者研究に来るのが好きだったし、僕もますっちがいると笑顔になれた。

・旅行が好きだったよね。みんなで秩父の温泉に行ったとき「こういうときのために生きてるんだ」ってすごく機嫌がよかった。アパートには旅行雑誌の「るるぶ」や「まっふる」が山になってた。

・哲学的なところがあった。哲学カフェで「さまよう」がテーマのとき、ますっちは「旅行とさまようのは別。さまようと船橋しか行けない。旅行だともっと遠くに行ける」って。

・絵がファンシーだよ。いっぱい絵を貰ってべてぶくろのあちこちに貼っていた。これなんか「冬ぴあ」って書いてある（笑）

・ますっち恋してたことがあったよね。夜回りを一緒にした人に。毎日電話してた。デートの誘い文句は「船橋に一緒に行こう」だったって（笑）。

・いい仲間に会えて、今頃天国で喜んでいると思います。こういう出会いがなかったら今のますっちはなかった。幸せだったとは言えないかも知れないけど、愛され上手だった。

・いろいろあったんだろうけど、達観して不思議な感じがあった。尊敬すべき点があった。童心に近い人だった。また会えると思っていた。

ハウジングファーストには「何回失敗してもまた家を用意するし、何回でも支援する」というポリシーがあります。

実際、ますっちと関わっている中で「もうダメだ」と思うようなことが何度もありました。でも、ますっちは戻ってきました。関係を切らずにまた戻れる強さが、ますっちにはありました。だから私たちも笑顔で「お

帰りなさい」って迎えて、また家を探して、支援することができました。たぐさんの喜びがあったって、たぐさんの喜びがありました。

もう「お帰りなさい」が言えないのが本当に残念です。



はっぴいめーかー大募集

□TENOHASIの活動

○炊き出し	毎月第2/第4土曜日	東池袋中央公園
鍼灸・マッサージ		16:00～18:00
衣類配布		16:30～17:00
医療相談 生活相談		17:00～18:00
ほっと友の会（お茶会・第4土曜日のみ）		17:00～18:00
配食		18:00～18:30

○おにぎりと夜回り	毎週水曜日	
おにぎり配布と医療・生活相談	21:30～	池袋駅前公園
夜回りと医療・生活相談	21:40～	池袋駅と周辺

- ハウジングファースト東京プロジェクト 路上脱出支援・安定した地域生活への移行支援
参加団体：TENOHASI・世界の医療団・べてぶくろ・
訪問看護ステーションKAZOC・あさやけベーカリー
つくろい東京ファンド・SWOC/ゆうりんクリニック
Habitat For Humanity

□ 活動資金のカンパをおねがいします！！

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI
銀行振込 ゆうちょ銀行 019(せうけい)支店 当座259686 トクビ) テノハシ
クレジットカード決済 ホームページからお願いします。

□ 物資カンパも大募集中！！

衣類（季節にあったもの。スーツや女性ものは不要）・靴・毛布・カミソリなど
食材（米・缶詰・レトルト食品など。） *【送り先】下の「発送元」らん参照

寄付・ボランティアのお問い合わせ
メール：TENOHASIのホームページの「お問い合わせ」から
電話：090-1611-1970(事務局長 清野賢司)

特定非営利活動法人TENOHASI
会報第37号
2018/7/1発行
□ホームページ <http://tenohasi.org/>
□メール tenohasi@yahoo.co.jp

発送元
〒177-0045
練馬区石神井台6-1-28
TENOHASI事務局
TEL 090-1611-1970

